

## 特集「電子社会に向けたコンピュータセキュリティ技術」の 編集にあたって

岡 本 栄 司†

1970年代中ばにアメリカで商用暗号が発表されてから四半世紀が経つ。わが国でも数年後には一部の研究者によって商用暗号の研究が始まった。それから20年以上経って、暗号はあらゆるところに組み込まれようとしている。これは、セキュリティ対策が電子社会の実現において、最も重要な課題の1つと考えられているからであり、今や暗号に限らずさまざまなセキュリティ技術が研究され、実用化されるようになってきている。

このようにさかんにようになってきたコンピュータセキュリティ研究であるが、その中で情報処理学会コンピュータセキュリティ研究会(CSEC)は、1998年の設立以来、シンポジウムや研究会の開催を通じてコンピュータセキュリティ研究レベルの向上に少なからず寄与してきた。その結果、CSECの登録会員数は増加を続けて今や370近くになり、前回のコンピュータセキュリティシンポジウムの参加者も169名、発表も75件と増加している。

このような状況で、本特集は、新しい情報環境の利用形態において安全な電子空間を創造していく基礎となる技術、プロトコル、アーキテクチャなどに関する研究論文を掲載することを目的として計画された。特徴は、CSECと同様、コンピュータセキュリティに関して、応用や実装を重視している点にある。実際、採録された論文などで、応用プロトコル、バイオメトリックス、不正コピーやウイルス対策、電子透かし、ネットワークセキュリティ、実装技術、システム評価などその傾向が強い。これは投稿論文自体にも当てはまる。ちなみに、投稿数は44、採録数は28で、採録率は64%であった。投稿数は昨年より増えており、コ

ンピュータセキュリティの重要性が高まっていることがこの数字にも伺える。本特集号が著者ならびに読者にとって役立ち、さらに次の研究に繋がることを期待したい。

最後に、本特集号のまとめるにあたり、忙しい中を限られた時間の中で作業をしていただいた方々にお礼を申しあげたい。特に、査読者と編集者にはご苦勞をおかけした。また、投稿していただいた方にも深謝したい。

「電子社会に向けたコンピュータセキュリティ技術」  
特集号編集委員会

- 編集長  
岡本 栄司(筑波大学)
- 編集委員(五十音順)  
岩村 恵一(キヤノン)  
菊池 浩明(東海大学)  
櫻井 幸一(九州大学)  
佐々木良一(東京電機大学)  
新保 淳(東芝)  
寺田 真敏(日立)  
土居 範久(慶應義塾大学)  
中野 秀男(大阪市立大学)  
西垣 正勝(静岡大学)  
林 誠一郎(NTTデータ)  
松浦 幹太(東京大学)  
松本 勉(横浜国立大学)  
宮地 充子(北陸先端科学技術大学院大学)  
村山 優子(岩手県立大学)

† 筑波大学